

人間の免疫力が一番低下するのは、本格的な冬よりも、徐々に気温が下がり、夜が長くなる、今の季節なのだそうです。食事と睡眠で体力をつけると共に、信仰によって、魂にも平安と天来の愛をいただき過ぎましょう。選挙の祝福も祈ります。

油断大敵

能登半島では、一昨年6月にM5.4の地震が発生。昨年は241回、一昨年も195回の地震が観測されていたそうです。「喉元過ぎれば熱さを忘れる」と言う諺がありますが、私たちはその時だけ大騒ぎをしても、なかなか十分な備えは難しいものです。何故か、「私に限ってありえへん」と過信してしまうからです。

一番弟子のペトロは、自分はイエス様を裏切ることなど決して有り得ないと、自負していました。イエス様に「あなたは今日、鶏が鳴く前に、三度私を否むだろう」と預言され、ペトロは、心外だったことでしょう。

どれほど私たちが、サタン（悪魔）の攻撃に脆いかということを、今朝の箇所は警告しています。サタンに狙い撃ちされたのは、イスカリオテのユダでしたが、実はペトロも、他の弟子たちも、全員が狙われていました。「私に限って、そんなことは」と声を震わせたペトロは、闇夜に痛恨の涙を流すことになったのです。

サタンは私たちをも、ふるいにかけます。過信してはいけません。太刀打ちできない災害が、私たちに降りかかることは、この世に生きている限りは宿命なのです。

傷こそ証

荻生徂徠の有名な「傷なきは人材にあらず」という深い言葉があります。人事採用でも、結婚相手でも、100点満点の良い人を私たちは探します。しかしそれは間違いだということです。むしろ傷のある人は、その傷によってその人の失敗や過去が見えます。それを隠さない人こそ、真実な人であるということです。無難な人は、本当の姿を見せていない信用できない人か、益にも害にもならない人と、一刀両断です。

ペトロの姿には、大きな傷跡が見えます。それは、主を裏切ってしまったという後悔の傷です。そして、それこそが、多くの人に神の愛を証し、人々を立ち直らせ、力づける使徒であることを示しています。

私たちの心の傷は、消せない過去のシミではありません。それは立ち直った時に、兄弟を力づける大切な、神の愛の印なのです。それを覆い隠すのではなく、神様が私を愛してくださっている証として、人々に示してゆきましょう。

サタンの攻撃に、私たちは耐え得ません。しかし、その傷は、己の弱さを教え、それでもなお見捨てることなく愛し続けてくださる、神の恵みの大切なしるしです。ありのままの姿で生きていきましょう。それを可能にしてくださるのが、ご自身を十字架の死に引き渡してくださった、あり得ないほどの主の尊い犠牲なのですから。